

新高退通信 No.137

HP: shin-koutai.jimdo.com

mail: shin.koutai@gmail.com

新高退通信

発行所／新潟県高等学校教職員組合／新潟市中央区川岸町2-11／TEL (265) 4151／FAX (231) 1036／1部10円
(購読料は組合費に包含)

発行人 吉田 裕史

2020年9月1日号外

新潟県高等学校退職者の会

事務局
〒951-8133
新潟市中央区川岸町2-11-4
(高校会館内)

退職者の会専用電話
025-265-1110

従来はこの号で旅行記、新高退・日退教・北プロのそれぞれ総合報告を掲載してきたのですが、今年度は全ての活動を原則中止としたため、内容は不十分になったことをお詫びします。今は八方ふさがりとなった安倍政権、最後のあがきが秋か？と噂されています。せめて早く野党の戦う態勢を思うこの頃です。



ほうごなつこ「安倍政権が成立させてきた悪法の数々」

2020年度 新高退議案 新型コロナ対応で 議案は初の書面承認で

新型コロナウイルス感染防止のため、今年度総会はやむを得ず中止しました。議案については、書面による承認をお願いしましたが、6月末集約で全支部から議案承認の報告をいただきました。

質問、意見もお願いしたのですが、支部での集約が難しかったというところでしょいか、新潟支部の「活動が全部中止になったのは残念」との感想と、長岡支部、上越支部からの意見2件のみでした。

長岡支部からは、新高教補助金について「全委員会費3千円決定したことにより、現役からの補助金も徐々に減額の方で望まれた方が良いのでは。年毎に3万減、10年後にはなし。」との建設的な意見を頂戴しました。

事務局としても2017年度の「会計運用適正化」着手後、会の安定運営を目指して様子を見てきました。その結果、会員各位のご協力により財政運営が安定し、次年度繰越金が充分確保されるよう

になりましたので、新高教補助金については、今年度は活動中止により全額返上、来年度から2年程度で現金による補助金を全廃する予定です。(通信発行にかかる経費は引き続き新高教に援助をお願いします)

上越支部からは、組織拡大について「過年度退職者の加入に向けて支部としても苦慮している。その具体策を本部、支部などで組織的に検討できないか。また、他支部の取り組みがあれば知りたい。」とのことでした。今後、事務局で対応を検討します。

今年度初めてお願いした「日退教闘争カンパ」等に充当するカンパですが、8・2現在の会費納入者422人中、195人からカンパしていただき、110,300円となりました。ご協力ありがとうございました。ただし、会計的には会費納入日によって年度をまたぐ(2019年度と2020年度)こととなります。

「一斉休校」という名の

疑似戦時体験

—コロナ災禍の偏・愚考—

木村昭雄(01)



「令和」元年の「国難」

アベ首相の肝いりで「令和」に改元されたのが2019年5月1日であったから、文明の恵みにどっぷりと浸かって暮らしを謳歌している惰性への警告ともとれる新型コロナウイルスの感染拡大という「国難」、「戦後最大の危機」への国策として、アベ首相が新型コロナウイルス改正特別措置法に基づく「緊急事態宣言」を発出した2020年4月5日は、実質的には令和元年であるから、改元元年に一つの国策として学習権の保証がない唐突な「一斉休校」が要請されたことになる。

戦時酷似の「一斉休校」

事象は異なるが、「一斉休校」は、近代日本教育史上初のものである。戦線の拡大、戦況の泥沼化により兵力、労働力の枯渇が露わになって、アジア太平洋戦争の敗戦が濃厚となり、本土決戦、「一億総特攻」が声高に叫ばれる

ようになった1944年3月18日に「決戦教育措置要綱」が閣議決定され、一年間の「授業停止」の措置が講じられた。さらに学校教育をより徹底的に総力戦体制に組み込むために5月22日には「戦時教育令」出され、日本の植民地であった朝鮮、台湾、樺太にも及んだ。近代日本教育の「自己破産」宣言と評された「決戦教育措置要綱」の内容(主要部分のみ)は次のようであった。

第1 方針

現下緊迫セル事態ニ即応スル為学徒ヲシテ国民防衛ノ一翼タラシムルト共ニ真摯生産ノ中核タラシムル為左ノ措置ヲ講ジルモノトス

第2 措置

一 全学生徒ヲ食糧生産、軍需生産、防空防衛、重要研究其ノ他直接決戦ニ緊要ナル業務ニ総動員ス
二 右目的達成ノ為国民学校初等科ヲ除キ学校ニ於ケル授

業ハ昭和二十年四月一日ヨリ昭和二十一年三月三十一日ニ至ル期間原則トシテ之ヲ停止ス、国民学校初等科ニシテ特定ノ地域ニ在スルモノニ対シテハ昭和二十年三月十六日閣議決定学童疎開強化要綱ノ趣旨ニ依リ措置ス

かくして、任意・期間限定・準正課扱いの集団勤労奉仕作業から義務・通年動員・正課扱いの勤労動員という「根こそぎ動員」の措置によって、学校教育は学徒勤労動員、学童集団疎開という波瀾の中へと投げ込まれ、児童、生徒はそれぞれの命運を左右される「国の大事に殉ずるは、われら学徒の面目ぞ」の日々がはじまった。学徒には、労働動員の他に「学徒出陣」、沖縄での「鉄血勤皇隊」、



「入所式に遺骨参列、

友の霊に誓ふ村松中学生徒」

「朝日新聞新潟版」(1944・8・25)

「義勇兵役法」等に見られる軍事動員があったことは周知のことであり、「志願兵」は「志願」という名を借りた強制であった。

文部省『学生八十年史』によれば、学徒勤労動員総数は次のようであった。(1945年3月現在。%)

％は動員比率)

□大学高専(教員養成学校も含む)

男 180,000人(64.1%)

女 147,000人(64.5%)

女 33,000人(62.3%)

□中等学校

男 1,629,000人(81.9%)

女 940,000人(78.0%)

女 689,000人(86.1%)

※これとは別に高等女学校卒業者を対象にした女子挺身隊があり、同窓会を軸に編成され出動した。

□国民学校高等科

男 1,297,000人(58.6%)

女 690,000人(58.2%)

女 607,000人(59.0%)

□総動員総数

男 3,108,000人(69.2%)

女 1,777,000人(68.3%)

女 1,329,000人(70.6%)

「聖戦」が「敗戦」となり、8

月16日に「動員解除三関スル件」が出され、「動員」、「授業停止」は継続の状況になったが、修業年

限の短縮、繰り上げ卒業、労働力確保のための専攻科設置等の措置も講じられていた。

「一般工場事業場二出勤中ノ男子学徒ハ可及的速力ニ動員解除スルコトトシ帰校ノ上晴耕雨読ヲ行ハシムル等貴官ニ於テ適当ノ措置ヲトラルベシ農業及運輸通信関係等二出勤中ノ学徒ハ当分ノ中動員継続を立前トスルモノトス。女子学徒二付テハ直チニ動員ヲ解除スルヲ立前トシ土地ノ情況ニ依リ貴官ニ於テ授業ノ継続スルヲ適当戸認メル場合ノ外何分ノ指示アル迄授業ヲ休止セラルベシ」「可及的速力ニ・・帰校」

とあるが、「満州」やや北海道などへの農業支援で動員された農業学校生の10月帰校、学校の空き地を利用しての食糧増産、教科書・教材の不足、教員の確保、工場化・兵営化されていた校舎等の教育条件の不備や教職員適格審査等もあって、学校教育の正常化は画餅のことであった。

「未決」の教育災禍

文部省『学生八十年史』によれば、学徒勤労動員期間中における「死亡者数は10、966人（うち原爆によるもの8、953人）、

傷病者数9、789人（うち、原爆によるもの3、994人）」の数字がこれまでの「定説」で、「数字は過少」と早くから在野の調査、研究者から指摘されてきているが、関係する既刊の多くの出版物に「定説」の数字が引用されてきている。

新潟県での事例のいくつかは学校史や新聞記事等で見られるが、公式な数字は明らかにない。『新潟県終戦処理の記録』の「鉄工丸事件」での死亡者「12人」【新潟工業学校7人、新潟第二工業学校（現・新潟商業高等学校）3人、相川中学校2人】が公式のようであるらしいが、傷病者に関する数字は記されていない。

神奈川県の日産自動車工場へ派遣された村松中学生1名が、故郷を離れて入所後2日での集団食中毒で死亡し、県当局との交渉の結果、横須賀海軍航空技術廠へ動員先が変更された例や「膝にた



「殉国の赤誠を胸に 学徒は征く
堂々県外動員の第一陣」
【新潟日報】(1944.7.18)

まった病気に身をおかされ」ながらも、「廊下に貼り出される学校別の作業成績のグラフの方が大切にされる」被服廠への動員の中を生きぬいた級友が、「翌年の二月に二十歳に満たない生涯を閉じた」（『記念樹』新潟中央高等学校）という新潟高等女学校生の例もあった。

三菱航空機、中島飛行機、豊川海軍工廠、陸軍造兵廠等の航空機関連の軍需工場が集中し「日本の兵器廠」、学徒勤労動員の先進地と呼ばれていた愛知県の豊田自動車挙母工場に動員された高田中学校生の動員は『高田中学校百年史』に詳述されており、「授業日は本日より増産のため全廃さる」、「空襲でも退避せず作業続行する

のが普通となる」、「4、5年生卒業式挙行、上級進学者以外はそのまま工場に止まり作業続行」など、執拗な工場爆撃や報道されなかった東南海地震（M8.9）、三河地震（M6.8）の中での精励恪勤の

日々が記されている。

死傷者数ほもとより、死傷者に対する補償、勤労動員の対価である報奨金の支払い等を含めての学徒勤労動員の検証は、戦後75年を経た現在でも未決のままである。敗戦後、県内でもいくつかの中学校で「同盟休校」が起こったが、その起因の一つに教育災禍「未決」の責任に対する学徒の義憤があった。

「一億総懺悔」の再現か

戦中の「欲しがりません、勝つまでは」、「堪え難きを堪え」を想起する「新しい生活様式」という「非国民」狩り的な臭味がし、東電福島原発核災後の自主避難区域設定にも重なるような「自粛」要請の効果が大きかったかは不明だが、5月25日、アベ首相は『わずか1ヶ月半で流行をほぼ終息させることができ「日本モデル」の力を示した』と大本営発表的な言辭で内外に誇示し、自民党「憲法改正草案」での「緊急事態条項」を先取り試行するような「緊急事態」の「全面解除」を発表したが、第2波襲来の危惧さえ拭えず、コロナ災禍であからさまに噴出してきた多種多様な社会病理の究明は、

アベ首相の「国民の理解を」、「国民に丁寧な説明を」、「責任は私に」との常套句とは裏腹に、いまは「検証する段階ではない」と先送りされた。

コロナウイルス対策を審議する専門家会議の議事録不成成が明らかになったが、「議事録を残すと改竄したくなり」【朝日川柳】6月2日】の病癖は不治のもののようにである。アベ首相の危機管理能力への素朴な疑義は、血税を使つての迷走する全戸配布の俗称「アベノマスク」に凝縮されているように、そのネライは、人災「一極集中」の禍根を炙り出すように顕れたコロナウイルス感染の拡大防止よりも、増幅、累積する国民の政治不信、暮らしへの不安に対する口封じにあつたのかもしれない。

1945年8月15日に「玉音放送」あがり、この日に大本営から「軍の機密に関する一切の資料を焼却するよう」との命令が全自治体に出され、「一億総懺悔」で戦争責任、戦後責任にケリをつけられることになったことの再現が、いまわたしの脳裏から消えないでいる。

超えが試算されているにもかかわらず、巨額で不透明な血税の投入例が続出してきたが、これは戦前戦費膨張に暴走していった軍部の動向に酷似していないだろうか。

検察OBからの『絶対王政を確立したフランスのルイ14世の「朕は国家である」という中世の亡霊のような言葉をほうふつさせる姿勢」との批判に、1月20日召集の通常国会施政方針演説で「わが国は、もはや、かつての日本ではありません」、「世界の真ん中で輝く日本、希望あふれ、誇りある日本を創り上げる」と述べたアベ首相は、「歴史に学ばないことを教訓に・・・」の想いでいるのだろうか。

傍若無人に猛威をふるうもう一つの「アベ型付度・隠蔽・疑惑ウイルス」の増殖を収束、終息させられないことに対する負い目を感じながら、「日韓併合」の報に接し、石川啄木が詠んだ「地図の上、朝鮮国に黒々墨を塗りつつ、秋風を聴く」の、「朝鮮国」を「日本国」に変換して詠む、幽暗な世情に身を潜めている老骨の日々である。



遅ればせながら

佐渡支部 天沢正規(18)



このたび、遅ればせながら退職者の会の新会員となりました。

佐渡総合高校を定年退職後、羽茂高校で再任用となり、継続組合員として2年間羽茂高校分会に所属しておりました。退職者の会と掛け持ちもできたようなのですが、不器用な人間ですので一本化させていただきました。ですので、2年遅れの加入となります。

羽茂高校は佐渡総合高校の前任校であり、また、私の地元で自宅から5分とかからず、顔見知りの教職員も多く、生徒たちは穏やかで授業も気持ちよくできました。

また、部活動は以前同様写真部を担当し、撮影大会に参加したり、写真撮影で佐渡島内を周回したりなど、部員と一緒に楽しい時間を過ごすことができました。週3日の短時間勤務でしたが、教員としての「良いところ取り」的な2年間でした。

現在は再任用を退職し、今度は非常勤講師として週5時間、引き続き羽茂高校で勤務しております。年度初めから新型コロナウイルス感染症対策での臨時休業となつて、変則的なスタートとなつて振り回されております。夏休みは2週間ほどで、私も8月中の授業があるようです。

さて、教員稼業については以上の通りですが、先輩方のような悠々自適・開放感に浸ってセカンドライフをエンジョイ、などとはほど遠い状況です。というのも、我が家には認知症の94歳と95歳の両親がおり、現職の時から両親の見守り(監視)に始まり、現在は母親が要介護2で在宅、父親が要介護5で入院中ですが、近いうちに退院となれば在宅介護となり、妻と2人で年寄り2人を見ることになります。ここ数年、夫婦で旅行には一切出かけられず、コロナ

禍以前から巣ごもり状態でした。田んぼと畑があり、学校勤務以外は介護と野良仕事の生活です。

このような状況で、日々の生活でいっぱいはいっぱいで、会の方への参加も難しいと思いますが、今後皆さまのお仲間としておつきあいいただければと思います。よろしくお願いいたします。

「人間万事塞翁が馬」

三条・加茂支部 本間正人(19)



私は、83年度三条工業高校に英語教師として採用され(5

年)、その後見附(13年)、五泉(3年)、長岡工業(8年)、正徳館(4年)、そして長岡明德(4年)を最後に2019年度末定年退職いたしました。

37年間の教員生活を振り返ってみると、3つの大病との戦いでした。1つ目は、見附で野球部の顧問をしていた時に発病し、いきなり10か月入院することとなり、年休、病休では足りず、2か月休職することとなりました。特定疾患でしたので、医療費はかかりませんでした。その後5年間入退

院を繰り返し、結局手術を受けることができ、現在は完治しています。

2つ目は癌です。エコー検査で腎臓に腫瘍が見つかり、開腹、摘出手術を受け、4か月病休しました。脇腹に20cmほどの傷があります。

3つ目は肝臓です。定期健診で通院したら、その場で入院という羽目になりました。約1か月の入院でした。

というわけで、肝腎なところを患い、現在も通院し4つの科で治療を受けています。よく定年まで勤めることができたと感じています。

また病気ではありませんが、7・13水害で、家が床上浸水の被害にあいました。その時も皆様に支援していただき感謝しています。組合活動としては長岡工業の分会長の時の、校務分掌委員会廃止阻止闘争や、2010年「日の丸・君が代」強制・処分に対する、人事委員会口頭公開審理で、証人になった事等が思い出されます。

さて、退職後の生活ですが、庭園管理士(庭師)の資格を取りましたので、週3回庭仕事とテニス、週1回ゴルフとそば打ちといった

生活です。目標…70歳まで生き延びたい。

人生あとウン十年

佐渡支部 磯部浩伸(19)



佐渡高校相川分校を最後に定年退職しました。母校両津高校で

常勤講師の後、新採用は長岡商業高校。その後、新潟北、羽茂、両津、佐渡、相川と勤務しました。

自分の専門である生物の授業をすることがとても楽しく、また部活動で生徒とふれあうことも大きな楽しみでした。特に山岳部の顧問として生徒と多くの山行を共に出来たことは大切な思い出です。春休みや夏休みなどの長期休暇にはたびたび個人山行にも出かけました。山に登れたことが、時には苦しい教員生活を続けることができた大きな要因です。

我が家には果樹園があり、父が老いたここ数年は荒れたままになっていました。再任用をせずに退職したのは、これを何とか復旧したかったからです。父がまだ元気であるうちに、もう一度リンゴやモモが実った畑を見せてやりたい。

跡継ぎになるはずだったのに、教員になってしまったことへの罪滅ぼしでもあります。ただ、やってみて分かったことは、全く簡単ではないと言うことです。農協の指導を仰ぎながら技術を身につけていきたいところですが、収入を得られる日が果たして来るのかどうか。

加えて、加茂湖で漁をしたいと思いい、船舶免許を取り、漁船を購入し、漁協に加入申請をしています。半農半漁の生活が子供の頃からの夢でした。今は時々漁の先輩の船に乗り、刺し網漁の見習いをしていきますが、早く自分で捕った魚を魚市場に出してみたいです。

登山については、日本300名山の完登に向けて奮闘中です。7月15日現在246座に登頂済みです。体力的にこの2、3年が勝負なので、最低でも年間20座を目標に計画しています。再任用しなかった理由はこちらの方が大きいかもしれません。出来れば簡単な山には妻と同行し、一緒に絶景を楽しみたいのです。一時新型コロナウイルスによる移動自粛が出て心配させられましたが、その後解除されて安堵しています。

他には、地元の伝統芸能である

「鬼太鼓」と「のろま人形」に参加しており、練習や公演を楽しんでいます。どちらも奥が深い芸能で、いくら練習しても終わりがありませんが、途絶えさせず次世代に残すために、継続していきたいです。

人生100年と言われていますが、100歳まであと40年。やりたいことをしっかりやって、やり残しがないように楽しく過ごしていければと願っています。

退職を迎えて

長岡支部 小林孝一(19)



この度高等学校
校退職者の会に
入れていただく
ことになりました
た。どうぞよろしく願います。

私は千葉県での5年間の教員生活
を過ごした後、新潟県に採用さ
れ荒川、六日町女子、八海、小千
谷(定)、長岡農業、長岡大手、
そして長岡商業と勤務して定年を
迎えました。その間には分会書記
長、支部書記次長などを務め、組
合の先輩方が獲得してくださった
権利を守るべく活動してきました。
教員生活は今振り返ると苦勞の

多い事ばかりでした。それでも周
囲の組合員の方々の支えや、生徒
との楽しい思い出が私の教員を続
ける糧となって何とかここまで続
けてこれたのだと思います。今で
も旧友や昔の教え子と会を開いた
り、仕事の営業相手になったりと
繋がりがあることが私にとっての
幸せです。これから長く付き合
えれば良いと考えてます。

今年度は非常勤として3勤4休
の余裕あるリズムで1週間を過ご
しています。日々の洗濯、ゴミ出
し、料理と家事を行う生活は当た
り前ながら昨年までと違い、新鮮
で、充実した楽しい時間となつて
います。何よりもストレスが減つ
て、健康になってきたことを実感
しています。これからは教員時代
に溜め込んだ本、資料の山を少し
ずつ整理を行い。さらに主のいな
い実家の片付け、断捨離を何年か
かけてやろうと思っています。ま
た教員生活の中で知り合った県外
の友人、知人を訪ねる旅を計画し、
その土地の思い出、グルメ、観光
地、温泉等を時刻表や地図を眺め
ながら、のんびり楽しむ。これが
これからの私の目標です。

退職に思うこと

上越支部 大久保 易(19)



今年の3月に
退職し、「退職
者の会」に入会
できることにな

りました。しかし、年金支給年齢
の引き上げにより、あと数年のあ
いだ働くことを決め現在は、高田
北城高校で再任用職員として教壇
に立っています。

常勤講師として勤めた新井高校
原通分校でのことは、今でもほん
とよく覚えています。職員7
人の小さな学校でしたが、教員の
いろはを教えていただいた高校で
す。定時制4年生の担任という仕
事にも就くことができました。授
業のやり方や生徒との接し方など、
教員としての技術にとどまらず、
まるで人生訓でもあったような気
がします。

その後、津南高校に採用となり
ました。恥ずかしながら津南の事
は何も知らないままの赴任でした
が、自然の素晴らしさ、人々のお
おらかさ、冬の厳しさを感じるこ
とのできた7年間でした。何より
も我が子は3人とも津南生まれな
のです。

津南を離れ、与板高校の近くに
家を借りて与板町民として過ごす
こととなりました。祭りに参加し
たり町内会の活動があったりと、
思いのほか慌ただしい4年間でし
た。家族と共にさまざまな行事に
参加することで、与板の文化に触
れることができたと感じています。
地元にもどり、新井高校で総合
学科と出会い、研修で全国さまざ
まな学校を視察することができま
した。高田高校では母校同窓会の
仕事をする中で多くの先輩後輩と
の交流を経験できました。糸魚川
白嶺高校では毎日140kmの高速
通勤を経験しましたし、久比岐高
校では最後の担任もすることがで
きました。

大きな学校、小さな学校、専門
高校、進学校とそれぞれさまざま
な顔を持っていますが、どの職場
も素晴らしい空間でした。そこ
には必ず志を同じくする同僚と、輝
く心を持つ生徒がいましたし、私
自身も丈夫でテニス部や新聞部
の活動も生徒と共に走り回ること
ができました。そこでの出来事は
教員でなければ体験できなかった
ことです。楽しいこと、悲しいこ
と、辛いこと、そして感動したこ
と、それらのすべてが私の中では

宝もののように感じられます。

現在も、退職前と全く変わらずに生徒と向かい合っています。しかし2、3年後確実に教壇から離れるときがきます。そのとき私は何を思っているのか全く想像がつかません。多くの退職者のみなさんが、いきいきと第二の人生で活躍している姿を見ると、きっと私も何かが変わるのだろう、バラ色の第二の人生が待っているのだらうと期待をしているこの頃です。

第2の青春

新潟支部 栗川 治 (19)



この3月末をもって定年退職しました。高教組の仲間をはじめとして、多くの方々に支えられて、なんとか目標としていた定年を迎えることができました。ほんとうにありがとうございました。

大学を卒業して、新潟高校で非常勤(1982～83年)、新採用が柏崎高校小国分校(84年～87年)でした。このころ視覚障害が進み、間もなく失明。新潟盲学校(88年～92年)を経て、西川竹園高校(93年～2005年)、そして

て最後が新潟西高校(06年～19年)でした。

2年前に、立命館大学大学院先端総合学術研究科一貫性博士課程に社会人入学し、いま3回生です。研究テーマは「障害のある教員の社会運動の歴史」で、両津高校出身の社会学者・立岩真也先生のゼミに属して、ご指導いただいています。

この4月からは学生生活に専念しようと大学近くのアパートを借りて、京都に住む予定でしたが、コロナ騒ぎで大学は休校。5月からはZoomでのオンライン授業が始まり、新潟の自宅から出席し、論文購読や課題レポートに追われています。幸いなことに、日本学術振興会の特別研究員(DC1)に採用され、研究者の卵としての歩みを始めているところです。

2年前に妻を亡くして、寂しい思いをしていましたが、同じように夫を亡くした女性と出会い、おつきあいを始めたところです。せっかく京都にセカンドハウスのな部屋を借りたので、そこを拠点に、旅行を兼ねて彼女と時々行って、お寺(妙心寺や竜安寺がすぐそこ)などを観光したりしています。

高校を「卒業」して、学生生活と恋愛。第2の青春を楽しんでいる感じです。

組合に支えてもらい、これからも…

魚沼支部 滝沢貞親 (19)



2年間の講師後1984(昭和59)年4月、新採用として直

江津工業高校へ赴任しました。赴任早々、島修身さんから「昼飯を一緒に食おう!」と誘われ、そこで新採用2人は即、組合加入。そして何ヶ月かして、柏崎原発核燃料搬入阻止行動(夜通行動)に参加と、あつと言う間に組合に馴染みました。その後私は、新潟東工業、津南、塩沢商工、小千谷西と異動して今春、定年退職しました。

新採用当時の学校は、今と違い組合の勢いがあり、校務の全ては組合が主導していました。校長は職員(組合員)のいうことをよく聞いていたと思います。また現場で課題が見つかれば必ず議論が始まり、色々な角度から検証が行われ、その結果をもとに進められました。先輩の先生方は、そのように意欲的に仕事を行っており、と

ても輝いていました。その姿を見ながら、自分も早くそのようになりたいと考えたものです。そして面倒見がよく、われわれ若い教員を飲み連れて行ってくれました。仕事、恋愛、遊びなど悩みを訴えれば、丁寧な答え、時には一緒に考えてくれました。そこで教員として、社会人としての姿勢の多くを学んだ気がします。本当に感謝しています。

今、教員としての仕事に終止符を打ち、無職として生活しています。教員最後の2年間は、本部執行委員として活動させて頂きました。そして最後の年は県財政困窮による職員の給与削減や、新型コロナウイルス感染症による社会全体の大混乱でした。対県交渉や感染症対策の内容を知るたびに考えたことは、いかに「政治」が大切かということです。そして自分ができることは何か。自分に問いかけて出した結論は、来年4月の「十日町市議会 議員選挙」への立候補です。まさに何ができるかは未知数ですが、市議会に一石を投じる役を果たせるよう努力していきます。

これからも宜しく願います。

新潟支部 吉田裕史(19)



新潟県では1983年から200人を超える高校教員大量採用時代に入り、私も1984年に安塚高校で採用になりました。職員会議の後の反省会や、職員旅行、釣り愛好会、スキー旅行、麻雀

(未だに点数計算ができません)など先輩から育てていただき、組合活動を通じて上越の先生方とも交流することができました。その後、新潟北、白根、小出と経験し、2014年に離籍して現在は再任用委員長として70周年記念事業を企画してきました。しかし新型コロナウイルス感染症で移動の自粛や集会の中止が要請され、記念式典は中止することとなりました。学校現場も臨時休業中の授業時数確保などで夏休みの短縮など余儀なくされています。40人学級そのものが「3密」であることから30人以下学級の実現、部活動の社会体育への移行など、学校の環境整備を図ってきたいと思っています。

教科は数学でしたが苦手とする生徒が多く、定期考査前2週間ほ

ど復習期間をとって、教科書問題の繰返しをするようになりました。これは新潟北高校で阿部先生から学んだ手法です。教科書の例題や練習問題を切り貼りしたプリントで、中学時代に勉強がわからず突っ伏していた生徒に「目の前でやってみなさい」と時間をとると、隣同士で教え合ったりプリントで解答したものが〇をもらって分かる楽しい経験させることを36年間続けてきました。

趣味は料理です。何でも「やりたがり」の傾向が強く、やってできると楽しい、だからフェイスブックも料理ばかりです。

今後やりたいことは、「私は関西以西に行ったことが無い。」と主張する妻と、修学旅行で行った姫路城や別府温泉、阿蘇山、沖縄など行きたいと思っています。それにつけても新型コロナウイルスが一向に収まる気配も見せずに、東京に居る娘が帰省できるのか心配です。健康に留意して、退職者の会の研修旅行や学習講座など様々な活動に参加したいと思っています。今後とも宜しく願います。

分校・定時制時代(リレートーク/6)

「初任校の思い出」

鴻島 崇(04)

長岡支部



1968年から72年までの4年間新卒で長岡農業高校種苧原分校に勤めさせてもらった。68年3月下旬蓬平温泉のバス停に降りた。新採用者3名と分校主任。かんじきを履いて風口峠を越える。2時間半ほど歩いただろうか。

村に入ったら分校主任が教えてくれたが、私には杉の木立と雪しか見えなかった。68年種苧原は大雪で4m以上、ところによっては6m積もったという。しばらくしてやっと家が見え、その家の軒先に村長候補者のポスターが下げられていた。しかし、その時はまだ1階が完全に雪の下で、母屋の2階から出入りしているとは思ってない。ポスターが掛けられていたのは最も目に付きやすい母屋の軒先だったのが印象に残っている。

村の中をしばらく歩き、坂道にかかる。学校らしい大きな建物が目に入った。着いたかと思えたが、主任は脇も見ず、坂を上る。する

と、また目の前に新しそうな大きな建物が現れた。今度こそと思いきや、主任はその建物の前を歩き過ぎてゆく。そして、その建物の角を曲がり込んだ裏側の先に、小さな建物があつたのだ。それがまさしく種苧原分校。小学校、中学校、そして高校と山の斜面に順番に建てられていたのだ。

木造2階建て、普通教室4、特別教室2、畜舎と機械室が1棟ずつ。全校生徒124名。僻地の分校にしては生徒数が多く、普通コース、自営コース、家庭コースというコース制をとっていたが故に生徒募集に成果が上がっていたという。

宿にさせてもらったのは分校の同窓会長さん宅、飲んだ時によく聞かされたことは、「こんな山奥で高等教育が実践されているのは、ここ種苧原だけだ。僻地から高等教育の火を消すな」を合言葉に同窓会・PTA関係者が頑張ってきたからだ。」と。

担当した科目は理科、農業。持ち時間は21〜24ほど。生徒の能力差も大きく、ここでの4年間で教員生活の中でもいろんな意味で最も勉強した時期ではなかったろうか。

農業高校の定時制課程であったから、一般の長期休業のほかに田植え休み、稲刈り休みがそれぞれ1〜2週間あった。給料も定通、僻地、産振などの手当分ももらい、当時は宿直制もあったから年配の方の分も好んで交代して泊まった。また5日制だから土日と休めた。土曜日などボーリング場に通った。4年目稲刈り休みを利用して素晴らしい新婚旅行にも行った。

同窓会、PTA関係の行事が多く、役員の方々には大変お世話になったものだが、会議終了後の懇親会での種芋原名物の鯉料理が楽しみで、アライ、鯉こく、ヌタなど美味しくいただいた。このヌタは初めて食べさせてもらい、すっかり虜になってしまったが、種芋



当時の分校前景

原を離れ以来二度と口にする機会に恵まれていない。

ある朝、学校へ行くこうと宿の階段を下りるとご主人が、「今年は濁酒が大変うまくできたと思うんだが、試してみてくれ」とコップに入れた濁酒をさしだしてくれた。一口飲んだら大変甘かった。

「うまいですね！」一気に一杯飲んで学校に行く。その日は午前中とても気分よく過ごせ、2階教室への階段を上るときふらついたのを今でも覚えている。当時の生徒は気づいていたのだろうか。

冬場は寄宿舎もあり、種芋原地区以外の遠距離通学者が14〜15人泊まっていた。職員はその舎監も務めていた。その舎監の初日、舎生と一緒に夕食をとったあと、舎監室に入ると部屋の中真ん中に炬燵があり、その上に週刊誌が置いてあった。前任の方が置いて行かれたのかと、早速開いて、数ページめくるとタバコの吸い殻がはさんであり、明らかにそのページでもみ消した焼け焦げ跡も見えた。さ



会長 竹田邦明

日本退職教職員協議会

「自己責任」社会を否定し、政治の流れを変えよう

てどうするか。舎生の誰かが、私の対応行動を試していると、とつさに判断した。騒ぐのを止め、翌朝の朝食時に、舎長に黙ってその週刊誌を手渡した。その後、その件はどこからも誰からも一切話題にならなかった。喫煙を見逃して良いはずはないのだが。この他にも、鉄筋コンクリート作りの収納室のこと、校舎の雪下ろしのこと、初めて雪上車で帰ったこと等々思いうちは尽きない。

私の教員人生が種芋原分校で始まり、山古志分校最後の生徒とかかわりを持って教員生活の最期を迎えることができたことに感謝し、この文を閉めたい。

新高退会員のみなさま、コロナ禍の中いかがお過ごしでしょうか。今なかなか外に出ることもできず、鬱々とした日を過ごしておられるかもしれません。貴退教のみなさまの、平和で原発の危険におびえない社会を求める活動に心からエールを送ります。

安倍首相は、6月17日の国会閉会後、公の場に現れません(7月31日現在)。国民が不安の毎日を送らざるを得ない状況であっても、メッセージ一つ出ません。国・自治体は数字の発表と、お願い・要請は出てきますが、納得できる政策はありません。ここにも新自由主義の自己責任体制が現れています。結果、格差・差別が顕著となつていきます。

日退教はコロナの感染を防ぐために、組織代表者会議の開催を見送りました。9月の退職者連合・地公退高齢者集會も中止となりました。日退教独自の「辺野古新基地建設反対、沖縄と連帯する交流団」の派遣、「福島・脱原発学習の旅」も実施可能か検討しています。在宅での生活を余儀なくされていますが、仲間との交流は手段を工夫し続けたいものです。とはいえ、世の動きに目をそらすわけ

にはいきませんね。

19日行動再開

6月19日、午後6時半降りしきる雨の中、1、200人の市民が議員会館前に集まりました。「総がかり行動(平和フォーラムも構成団体)」が呼びかける「19日行動」です。新型コロナウイルス対策のため4月、5月の開催が中止となっていた毎月19日の国会前行動、3か月ぶりに行われました。2015年9月、安保法制(戦争法)の強行採決から続く19日行動も、この日55回目を迎えました。日退教は、この5年間、関東近県各単会のみなさん中心に、毎回国会前の行動に参加しています。コロナ感染対策のため、シユプレヒコールはなし。行動時間も45分の予定でしたが、久しぶりのためか、各党国会議員からの連帯あいさつ、続く、学者・市民の話も熱が入り、1時間20分に及びました。早々に国会を閉会してしまつた安倍政権に対して批判を集中、安倍政権退陣に向けた意思



議員会館前の「19日行動」

池現知事の圧勝。毎日テレビに顔を出し、「コロナ対策やつて」感を出せば、当然でしょう。その一方候補者揃つてのテレビ討論は拒否しました。選挙後に感染者数がどつと増えるだろう

を力強く示しました。解散総選挙は近い。現憲法下で計25回の総選挙のうち、任期満了での選挙は1回しかありません。残り24回は衆院の解散です。(事実上の)解散権を握る安倍首相は(得意の)「頭の片隅にもない」としながらも、「国民の信を問うべき時が来れば、解散を断行する」と言っています。



辺野古ゲート前座り込み 2017年

というのも予想通りでした。「野党側(国会)」は統一候補を立てられませんでした。また、連合東京・東京高退連は、小池候補を「支持」決定しました。注目すべき点の一つは「日本維新の会」推薦候補者が、3位の山本太郎氏(得票率10・72% 65万7千票)に迫る得票率・票(9・99%、61万2千票)を獲得したこと。こちらも候補者本人より、大阪府知事が連日コロナでマスコミに登場していたことが票に結びついたということでしょう。次期総選挙では自民は公明と組んでも憲法改正に必要な3分の2を獲得するのは難しいとされていますが、そこに日本維新が加われば、もう一つはヘイト団体が在特会の会長が設立した『日本第一党』公認候補者(会長自身)が2・92%、17万8千票獲得したことです。この2つの現象が今後の国政選挙にどのような影響を与えるか注視する必要があります。

そしてモリ・カケ・サクラ、側近の公選法違反など、自民党にとつて選挙ができる情勢ではないとみるのが当然でしょうが。

野党結集はできるか

立憲民主党と、国民民主党は両党の合流を巡って協議・作業をすすめています。前回衆院選で旧希望の党から立候補して比例代表で当選した議員は、国会法で政党間移動が制限され、立憲には入党できません。そこで新党です。昨年7月の参議院選挙で、連合の組織内候補(比例代表)は10人中8人が当選しました。立憲民主党からの候補者は、10万〜15万票余の得票で5人全員当選(日教組水岡さん)、国民民主党の候補者は20万票近くを得ながらも、当選できませんでした。連合にとつては「死活・重大な問題」です。憲法、原発で溝があるなかで、どのようにまとまることができるのか。さらに次には社民党との協議はどうなるか。安倍一強体制を潰し、憲法改悪を許さない勢力を広げるために動向を注視します。

ソーシャル・ディスタンスが人間関係の距離を広げることのないように。

この人は今

「マイペースでのんびりと」

魚沼支部 滝沢直行 (02)



新採用は1971年興農館高校です。その後、六日町高校五日町分校、小千谷西高校、堀之内高校、六日町高校、小千谷高校で教員生活を送り、2002年退職しました。その後、十日町高校でも講師をしたのでそれを含め42年間の教員生活でした。これから成長する高校生と授業を中心にいろいろ関わることに意義を感じながらのびのびと楽しく仕事をするのができました。意義を感じながら、のびのびと楽しく仕事をするのができたのは高教組の組織が間違いなく支えてくれたと思っています。さて、退職してからの様子ですが、平凡に生きています。

ます。多分10年ぐらい続いていると思います。私の健康の元です。全体に健康と思っていますが、77歳になりますので高齢化は確実に忍び寄っています。耳の聞こえが悪くなっていますので、テレビの音を大きくし、しょっちゅう「なに」ともう一度問い質すので家族に迷惑がられ、ついに補聴器を買いました。(結構高価です) 他に運動ではテニスのグループに所属し、月に二、三度金曜日夜に2時間ほど楽しんでます。冬も体育館を使ってやります。20年以上続いていると思います。若い人は私の様子を見て打ちやすいボールを打ってくれます。今年はコロナの影響で、6月からようやく市営のコートが使えるようになりました。ヨガをやり、朝食が終れば、新聞をかなり丁寧に読んでいます。後は午前中、午後も含め家の仕事をしたり(家の掃除・後片づけ、庭の草取り等々)、本を読んだり、映画を観たり(いろいろな良さそ

うな映画をテレビにたくさん録画してある) マイペースで過ごしています。午後は趣味の油絵を描いて時間をつぶしているときもあります。市が生涯教育の一環としてやった「油絵教室」で習って以来、20年ぐらい描き続けていますが、思っているようにはなかなか描くことはできません。9人の仲間と「絵画グループ」を作って月に2回集まって絵を描いています。グループの中に指導できる実力者がいてくれてありがたいです。展示の機会は「市展」「地域文化祭」池田記念美術館の「八海山夢展」「グループ展」といろいろあります。時間がありませんで毎年こんなところに出歩いています。春は花見に行っています。千鳥ヶ淵(3、4年連続で行ったこともある)新宿御苑、外堀公園、昭和記念公園等々、むろんついでに東京見学も兼ねます。新潟でも高田公園の桜(2度くらい行っている)、村松公園の桜のときもあ



油絵2点「静物」(左)と「春の八海山」

りした。年によって水戸の偕楽園、熱海梅園など梅の時もありました。越後丘陵公園のばら祭りなどは軽い気分で行っています。大人の休日パス使った旅行もしています。昨年は青森、仙台を中心に旅をしました。伊豆・箱根が中心の時、酒田・鶴岡方面が中心の時もありいろいろです。東京にはしょっちゅう行きます。美術を鑑賞することは若いころから大好きでしたので国立博物館、新国立美術館等へ美術展の鑑賞は何度か行きます。行ったついでに春・秋の大学野球の応援にも行きます。さらに、東京のいろいろのところに行くことは言うまでもありません。高校野球も好きで夏の地方大会は母校の小千谷高校、勤務校であった六日町高校、十日町高校の試合を応援に行くのは年中行事です。

京都・奈良も毎年行っています。高齢の姉は夫が亡くなって以来、堺にひとりで住んでいますので様子を年に毎年行っています。ついでに奈良か京都は必ず行きます。

法隆寺の百済観音、中宮寺の弥勒菩薩、薬師寺の聖観音、興福寺の阿修羅像、京都都広隆寺の弥勒菩薩、平等院の阿弥陀如来等々は3回も4回もお参りをさせていただいています。心安らぎます。例えば中宮寺に行く時、自然に足が早まります。弥勒菩薩にお会いすれば、「2年ぶりにお会いしますがお元気でしたか」そんな気持ちです。京都では銀閣、南禅寺、二条城なども何度も訪れています。京都、奈良は何度訪れてもすばらしい。それは歴史に培われた文化の深さが根底にあると思っています。

新高退魚沼支部の役員も長くなりました。魚沼市では私より若い人がいないのでやむを得ないかとも思っています。ただ、あまり苦痛に感じているわけでもありません。役員の仕事も認知症予防に役立っている部分もあると思っています。何より役員会、総会・研修会、新年会等で先輩、同僚、後輩に会い、思い出も含めいろいろと話ができることがうれしいです。退職後の生活は、マイペースでのんびりした良い生活を送っていると思っています。

『活動日誌』・点描

■事務局会議・通信編集会議(5月13日) 2020年度議案を審議
■9月に咲花温泉で開催を決定していた「囲碁の会」延期の連絡(5月26日) ■事務局会議・通信編集会議(5月27日) 久々に加入の申込み・これで9名に ■通信No.136発送・事務局会議(6月3日) 支部補助金の送金 ■日退教組組織代表者会議、総会(6月12日) 新型コロナウイルス感染拡大防止(以後、「コロナ」のため「書面による議決」に変更 ■第44回北陸ブロック定期総会(6月17・18日) 福井県で開催予定がコロナのため「書面による議決」に変更 ■護憲フォーラムにいがた「総会記念講演会」(6月24日) コロナの中、開催決行。講師・古賀茂明さん ■事務局会議・通信編集会議(7月1日) 長岡支部の鴻島支部長と小幡事務局長が「議案の賛否」と「分校時代」の原稿持参 ■「2020年度議案に対する賛否」の集約、支部に結果送付(7月8日) 1、2号議案とも全支部より賛成(承認)をいただく。各支部の対応に感謝 ■事務

局会議・通信編集会議(7月22日) 日退教より「2020年7月豪雨の会員被災状況調査」、新発田・村上、長岡、佐渡より立派な「支部だより」が、上越支部からは「総会議案書」が届く ■県退職者連合第28回定期大会(7月28日) コロナのため幹事が代議員となる変則的な開催となる

編集☆集☆後☆記

2020年度議案は、新型コロナウイルス対応で文書承認をお願いした。顔を合わせての議論ができないから、きつと質問・意見がたぐさん来るだろうと思い、通信には2ページを確保した。しかし、賢明な会員諸氏の配慮で「異議なし」の承認を得た。1ページ分の穴が開いたが、感謝したい。

「疑似戦時体験」は、コロナ禍における政府の対応に「戦時体験」を見た木村会長が自らの研究成果を披瀝しながらのエッセイ。

ことしの新会員は9人、要請に応じて寄稿いただいたことに感謝したい。皆さんが退職後にも、それぞれがそれぞれの新たな課題に取り組みんでおられることに敬意を表したい。

「分校・定時制時代」は6回目、

長岡支部長の鴻島さんから寄稿していただいた。文中の「濁酒を一気に一杯飲んで学校に行く。...2階教室への階段を上るときふらついた」との記述、時代もあるかもしれないが、のどだった分校生活を物語る。

日退教報告は、今回特別に新高退のために竹田会長に寄稿をお願いした。

「この人は今」は、魚沼支部事務局長滝沢さんの「いま」を取り上げた。花を愛で、芸術を愛する筆者が、東北・関東・関西と全国を飛び回れるのは、健康を大切に生活をしている証であり、うらやましい限り。

ご冥福をお祈りします

(括弧内は「現職退職年」)

木村 弘之 さん (84)

(長岡支部 7・5)

小林 直樹 さん (03)

(新発田・村上支部 7・10)

川瀬 和敏 さん (03)

(三条・加茂支部 7・14)